

一般演題7-1

SPO2低下サインの重要性・HBO中止症例の経験

千葉義夫 井門雄志 木村成暁 山口和政
野村美歩 倉重昂也 鈴木慶宏 芳賀友太郎
德里和歌乃 鈴木美衣 岡田昂大
宮山恵里花

社会福祉法人 仁生社 江戸川病院 ME室

【はじめに】

患者様の生体情報を知りえる上でよく使用されているパルスオキシメーターがある。今回我々は高気圧酸素患者様（以下HBO）を看護師が患者様のお部屋に訪問した際に、SPO2を計測し、正常値より低下している状態を確認した。結果患者様は翌日のHBOは中止になった。HBOが中止になった経緯を報告する。

【症例】

83歳 女性 病名 腰部脊柱管狭窄症
既往歴 子宮筋腫 高血圧 リウマチ 糖尿病 狭心症

腰部脊柱管狭窄症に対し片側進入腰椎後方椎体間固定術を施行も術後仙骨骨折。膀胱直腸障害出現。仙骨に対するOPE施行までの間膀胱直腸障害改善目的の為HBO施行となる。

【HBO治療経過】

HBO前の血液検査，心電図，胸部撮影など特に注意すべき症状はなく1回目から4回目までは大きな問題もなく無事に治療を終えている。

HBO 5回目治療前の患者情報で，RoomairでSPO2が88%と低下していた。呼吸困難も訴えなし。便に血液が混じっている状態。気になる点はあるも5回目のHBOは施行できた。ただ，

SPO2低下の状況は続いており，酸素1Lを鼻カニューラから流すとSPO2は95%まで上昇する状況なため，主治医胸腹CT，血液検査施行。読影の結果，肺塞栓が確認できHBOは中止となった。

【結果】

我々MEスタッフは，HBO施行前に必ず，医師の記事，看護記録を確認する。この症例は看護記録の情報から，患者様の既往歴等様々な事を考え主治医に相談でき，結果，消化器内科や循環器内科と速やかに相談できる環境が整っていたのでHBO中止するまで至ったケースと考える。

【結語】

第1種治療装置の急変時の対応においては難渋が予想される。可能な限り，患者様の急変を起ころうる前に情報を把握し対応を行うには，バイタルサインが記入されている看護記録確認の徹底

・看護師・ME室間の情報の共有の徹底，異常時の観察・主治医への報告，相談が大変重要と考える。